

2025 年度

全学部統一入学試験 I 期問題（2 月 5 日）

国 語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

① 受験番号欄

受験番号を英字及び数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。

② 氏名欄

楷書でていねいに記入しなさい。

③ 解答科目欄

解答する科目を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。

4. 解答はすべて解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の例のように解答番号10の解答欄の③をマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
1 0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

I 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

現代思想の中心的なテーマの一つに、「人間」中心主義批判^(A)というものがある。言うまでもなく、これはかなり「一般常識」に反した思想である。現代社会では、「人間を大事にしよう」という考え方に疑問を付そうとすれば、相当勇気がいる。幼児ならいざ知らず、いい歳をした大人が、「なぜ、人間って大事なの？」と、本気で悩み込んでいる様子を見せたら、「危ない人」か「人でなし」と思われるのがオチだろう。どんな自明の理^(a)でも疑ってかかることを特性とする哲学の世界でも、「人間」の価値を疑うことは長い間タブーであった。

そのタブーを破るきっかけになったのは、第二次世界大戦による「人間性の限界」の体験である。ナチス・ドイツが、ユダヤ人問題を「最終解決」するため、六百万人を虐殺したことは、周知のように、世界に衝撃を与えた。しかし哲学・思想的に重要なのは、大量虐殺という「客観的事実」そのものよりも、それが単なる「動物的な野蛮」^(ア)の為せる業^(B)ではなく、特定の「人間」観から体系的に導き出される帰結だったということである。

ナチスの「人間」観^(イ)というのは、アーリア人（ゲルマン民族）を最も優秀な人種、つまり、最も「人間らしい」人間とキティし、それから最も「遠い」とされるユダヤ人は劣等人種であり、人類に害を為す害虫と見なすものだった。従って、ユダヤ人を絶滅^(イ)驅除することは、「人類＝人間性 humanity」の健全な発展を図るためにアーリア人に与えられた世界史的使命であるということになる。ナチスは、そうした自らの構築した人間・世界観に極めて忠実に、「最終計画」を練り上げたわけである。従って、自らが信ずる「人類＝人間性」の未来のためにコミットすることを、「人間中心主義＝ヒューマニズム」と呼ぶとすれば、ナチズムは、間違いなく「ヒューマニズム」である。

(あ)、このような言い方をすれば、「人類」の中に「人種」的優劣を持ち込んだりするのは、本来の意味での「ヒューマニズム」ではない、という(い)が当然出てくるだろう。いわゆる「ヒューマニスト」人道主義者を自称する人たちのほとんどは、「ヒューマニズム」とは、特定の人々ではなく「すべての人間」を大事にする思想だと主張する。しかし、その場合の「すべて」というのは、通常思われているほど単純なことではない。

最近、国際政治でよく話題になるように、ある地域で、国家と国家、あるいは民族と民族が戦争をしている場合、それに対してどのような態度を取るのが最も「人道的」かというのは、常に「難しい」問題である。戦争・武装対立に際して、軍事的であれ非軍事的であれどちらかの味方をすれば、事実上、(守るべき「人類」の範疇から)一方を切り捨てることになる。中立不介入という手もあるが、それは見方によっては、(自分が預かり知らぬところで)人が戦争で死んでいくのも止むなし、とアキラめてしまうことを意味する。そうした日本の曖昧な態度ではダメだということで、「人道的介入」をめぐる議論が徐々に盛んになりつつある。倫理的・法的に正当化可能な普遍的「正義」の基準を掲げ、それを実現すべく、あえて紛争の中に入っていくことは、一見、極めてヒューマニスティックな行為であるように見える。しかしそれは、裏を返せば、「正義」に適っていない側、つまり「悪」の側を、「人類」全体のために除去するのも止むを得ないと「決断」することを意味する。そうした「決断」は、別にブッシュ大統領の専売特許ではない。どのような「人道的介入」も、人類の善なる部分と悪なる部分を区別して、前者のために後者を排除することは仕方ない、という判断を必然的に伴っているのである。

こうした「善／悪」、「(う)」を基準として人類を分けるのは、生まれながらにして決まっている「人種」を基準に差別するよりは、遥かにましかもしれないが、結局、「全ての人間」を大事にすることはできない点では、^(c)程度問題であるとも言える。

二十数年前、筆者が中学生だった頃、(故) 萬屋錦之介扮する町医者叶刀舟が、悪人たちをばっさばっさと切り捨てていく、「破れ傘刀舟悪人狩り」(一九七四―七七) というテレビ時代劇があった。悪人に切り掛かる時の、刀舟の決め台詞が印象的だったので、三十台後半以上の多くの人が覚えていと思うが、「てめえら人間じゃねえや、たたつ切つてやる!」と言うのである——隠密でもないただの町医者が毎回幕府の大物や諸大名の重臣を「たたつ切る」という設定は、時代劇にしてもかなり無理があるわけだが。小気味がいいので、子供でも大人でも大げさな冗談で言ってみたくなる台詞だが、よく考えると、恐ろしい。極悪非道の「悪人」は、「人ではない」と言つて、文字通り切り捨てているのである。

この過激な台詞に象徴されるように、カン善懲悪ものの時代劇や西部劇などのほとんどには、冷静に考えてみると、かなりぞつとするような、「人でなし」もしくは「人非人」切り捨ての論理が働いているわけだが、これは芝居の世界だけに当てはまることではない。現実の世界では、「人類全体」のために「人非人」を排除することが、常に何らかの形で行なわれているのである。

これは、戦争や流血の衝突に限ったことではない。日常生活においても、社会的公正の原理としての「正義」を貫くことは、結果的に、「善人」の目的実現のために、「悪人」の行動の自由を制約したり、資格停止すること、場合によっては、「人間」の範疇から放逐することにつながる。哲学や思想が、普遍的な「正義」の基準を練り上げようとするれば、否応なく、そうした「人非人」^(d)排除の論理に加担することになるわけである。「ヒューマニズム」が、最優先されるべき「人類≡人間性」^(e)にとつての普遍的価値を追求する限り、こうした「人非人」^(e)排除というジレンマを避けて通ることはできないのである。

(仲正昌樹『不自由』論——「何でも自己決定」の限界』による)

※ジョージ・ウォーカー・ブッシュ……アメリカ合衆国第四十三代大統領

問一 傍線部(ア)、(オ)の読み方として正しいものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|-----|------|---|---|-----|---|------|---|------|---|------|
| (ア) | 為せる業 | 1 | ① | ギョウ | ② | ギ | ③ | ゴウ | ④ | ワザ |
| (オ) | 放逐 | 2 | ① | ホウチ | ② | ホウトウ | ③ | ホウチク | ④ | ホウツイ |

問二 傍線部(イ)、(ウ)、(エ)を漢字に直したときに正しいものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| (イ) | キテイ | 3 | ① | 規定 | ② | 規程 | ③ | 既定 | ④ | 基定 |
| (ウ) | アキラめて | 4 | ① | 諦 | ② | 飽 | ③ | 締 | ④ | 明 |
| (エ) | カン善懲悪 | 5 | ① | 観 | ② | 勘 | ③ | 完 | ④ | 勧 |

問三 傍線部(a)、(b)の意味として最も適切なものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

- | | | | | | | |
|-----|--------|---|---|----------|---|----------|
| (a) | 自明の理 | 6 | ① | 役に立つ訳 | ② | 物事の筋道 |
| (b) | 小気味がいい | 7 | ① | 客観的事実 | ④ | 自然科学系の定理 |
| | | | ② | 気持ちが良い | ③ | 格好がよい |
| | | | ③ | はつきりしている | ④ | 簡単である |

問四 本文中の(あ)、(い)に当てはまる言葉として最も適切なものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

- | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|----|---|----|---|----|---|-----|
| (あ) | 8 | ① | 極論 | ② | 無論 | ③ | 総論 | ④ | 一般論 |
| (い) | 9 | ① | 結論 | ② | 激論 | ③ | 推論 | ④ | 反論 |

問五 本文中の（う）には、対になる言葉が入ります。当てはまる言葉の組合せとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

10

- ① 正義／不正 ② 公平／不公平 ③ 強／弱 ④ 合理／非合理

問六 波線部(A)「『人間』中心主義」とは、どのような考え方か。最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

11

- ① 自分たちで決めたことが、すべて正しいという考え方
② 人間が他の動物たちよりも尊い存在であるという考え方
③ すべての人間を大事にするべきであるという考え方
④ 自分たちの作ったルールに従っている人間のみを大事にするべきであるという考え方

問七 波線部(B)「特定の『人間』観から体系的に導き出される帰結」とはどういうことか。最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

12

- ① アーリア人は最も優秀な人種であり、そのアーリア人に害を及ぼすユダヤ人は「人間」の敵であるため、駆除されなければならない。
② アーリア人のみが「人間」であると考えて、アーリア人以外の全人種を駆除するために、ユダヤ人を大量虐殺しなければならない。
③ 劣等人種であるユダヤ人は、「人間」らしい人間から最も遠いので、「人類」の発展の妨げにならないよう駆除されなければならない。

- ④ アーリア人の作ったルールに従わないものは「人間」ではないため、ルールに従わないユダヤ人を大量虐殺しなければならない。

問八 波線部(C)「程度問題である」とはどういう意味か。最も適切なものを次の①～④のうちから一つ選び

なさい。

13

- ① 国家と国家の戦争に軍事的介入をすることと、それをしないことは、どちらも「ヒューマニズム」に反する。
- ② 普遍的「正義」を基準に人類を分けることと、「人種」を基準に差別することは、どちらも同じようなものである。
- ③ 普遍的「正義」を基準に人類を分けることと、「人種」を基準に差別することでは、後者の方がより「ヒューマニズム」に反する。
- ④ 「すべての人間」を大事にすることができないため、普遍的「正義」を基準に人類を分けることはやむをえない。

問九 波線部(D)「『人非人』排除の論理に加担する」とは、どういう意味か。最も適切なものを、次の①～

④のうちから一つ選びなさい。 14

① 「人非人」排除の論理に賛同すること

② 「人非人」排除の論理に説明を加えること

③ 「人非人」排除の論理に疑問を持つこと

④ 「人非人」排除の論理に反発すること

問十 波線部(E)「『人非人』排除というジレンマ」とは、どういう意味か。最も適切なものを、次の①～④

のうちから一つ選びなさい。 15

① 「すべての人間」を尊重すべきという考え方と、そのために「人道的軍事介入」を行うことが出来ないというジレンマ

② 倫理的・法的基準を最優先にすべきという考え方と、そのために「人非人」を排除しなければならないというジレンマ

③ 「すべての人間」を尊重すべきという考え方と、そのために人間を差別するどのような基準も設けることができないというジレンマ

④ 「すべての人間」を尊重すべきという考え方と、「人間らしさ」を追求するために、基準を満たさない人間を排除しなければならないというジレンマ

Ⅱ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

読書に、ある種の^(ア)喜びと充実を感じるようになったのは、九月に入ってからだった。そしてちょうどその頃、ぼくは有吉が腰の病気で入院したことを知った。腰の中心部に集まっている神経の病気らしく、草間は電話口で何やら難しい病名を言った。ぼくはデパートの食料品売り場を（い）歩き廻ったあげく、結局メロンを一個お見舞いを買って、草間との待ち合わせ場所へ急いだ。草間も同じように、メロンがひとつ入った箱を持って待っていた。

「こんなときでもない、こういう^(イ)贅沢な果物を腹いっぱい食えるチャンスはないからなア」と草間は言った。

（中略）有吉は六人部屋の、いちばん奥のベッドにいた。そこからは川が見え、淀屋橋へつづいていくオフィス街のにぎわいが眺められた。

「親父が、病気のときは神経を使うな、もう一年⁽¹⁾口ウ人してもええから、いっさい勉強はしたらあかんで言いよるんや。来年落ちたら、家の運送屋を手伝わせるて言うと思ったのに、えらい変わりようや」

有吉はベッドの横の台に積んだ十数冊の参考書を足の甲で軽く押すと、

「こんなしょうもない腰の病気で、また一年間を棒に振ったり出来んよ。来年は滑り止めに、S大の医学部も受けることにした」

そう言って笑った。

「S大なら、勉強せんでも通るでエ。有吉の実力やったら百パーセント合格やがな」

草間の言葉をついで、ぼくは何か励ましになるようなことをと思い、

「優秀な医者になるには、自分も多少は病気を経験しといたほうがええんや。病人の気持がちゃんと判るが

な」

と言った。そして、どんな具合なのか症状を訊いた。有吉は体の向きを変え、腰の真ん中を押さえて、ここに鉄の玉が詰まっているみたいと感じなのだ⁽²⁾と説明した。

「一種の神経痛みたいなもんらしいけど、ちゃんと⁽²⁾治療^(a)しとないと、一生の持病になってしまうそうや」それから、長く伸びた頭髮の乱れをなおしながら嬉しそうに囁いた。

「おい、医者はカッコええぞオ。患者にも看護婦にも、もう絶対的な優位に立ってる。こんなええ職業はほかにない。ただ、想像以上の肉体労働やから、体を鍛えとないとあかんぞオ」

ぼくは病院を出ると草間と別れた。草間は受験勉強があつたし、ぼくはカミユの小説のつづきを読まなくてはならなかったからだ。別れしな、草間は不思議そうな顔つきで言った。

「お前、何のために、そんなに意⁽³⁾ジ⁽³⁾みたい⁽³⁾に本を読んでるんや？」

ぼくは答えようがなかったから、苦笑いを浮かべて手を振ると、川沿いの道をとぼと歩いて行った。

ぼくと草間は九月末と十月の半ばにも有吉を見舞った。薬の副作用で下痢がつづいているらしかったが、有吉の様子に変わったところは見られなかった。(ii)、十一月十日、四度目の見舞いにひとりでおもむいたとき、ぼくは有吉の病状が尋常なものではなかったことを知った。十日程前に移ったとかで、有吉は病棟の端にある個室のベッドに臥していた。たったひと月あまりの間に、有吉は変わり果ててしまっていた。顔はふたまわりほど小さくなり、膝から下がむくんでいた。薄い胸の下に膨^(b)れた腹があつた。ぶ厚い蒲団を掛けてあつても、有吉の体の異常さがうかがえたのである。付き添っていた母親は、^(c)ぼくが病室に入ると、ちよつと売店に用事があるからと言って出て行った。ぼくは言葉^(c)を喪^(c)つて、早々に退⁽⁴⁾サ⁽⁴⁾ンするきつかけを見つ⁽⁴⁾け出そうと落ち着きなく椅子に腰かけていた。初冬の夕暮が落ちて来ていた。有吉はあおむけに寝て、首を窓に向けたまま、ぼくに話しかけようともせず、じつと暮れなずむ空に目を向けていた。ぼくが何か喋ら

なくてはならぬと思い、言葉を選んでいると、

「きのう、草間が来たよ」

有吉は顔をそむけたまま聞き取りにくい声で言った。

「俺、何をやっても、あいつには勝たれへんような気がしてたけど、やっぱりそうやったなア」

「草間のやつ、俺の妹に気があるんやけど、妹はお前のことが好きなんや」

「……俺は、犬猫以下の人間や」

ぼくは驚いて、臥している有吉の耳から顎にかけての翳^{かげ}を見つめた。

「なんで、そんなこと言うんや？」

有吉はそれには答えず、深いため息をついた。有吉が窓の向こうから目を離さないのは、顔を見られたくないからかも知れないと思い、ぼくは立ちあがってドアの横の小さな鏡に自分を映した。^(あ)ぼくは何かに祈り^Aたかった。俺は犬猫以下の人間やと有吉が呟いたとき、ぼくは烈しい恐怖と憂愁に、夕暮の彼方から手招き^(い)されているような気持ちに包まれたのだった。逃れようのない決定的な絶望に勝つためには、人間は祈るしかない筈だった。ぼくが立ち上がったのは帰るためだと有吉は思ったらしく、初めて顔を向けて、

「またな」

^Bと言った。ぼくがぼんやり立ちつくしていると、有吉はもう一度、

「またな」

と言って、笑った。

有吉はそれから二十日後の、十一月三十日の明け方に死んだ。死んでから、ぼくと草間は、有吉の腸が癌にやられていたことを知った。手遅れの癌で、両親は最期^(ウ)まで誰にも真ソウ⁽⁵⁾を明かさなかったのである。

自分が、いままさに死にゆかんとしていることを知らないままに死んでいく人間などいないと、ぼくは思

う。(iii)、人間が死ぬ必要などどこにもないではないか。人間は、そのことを思い知るために、死んでいくのだ。有吉の死後、ぼくが読書すら放擲^{ほうてき}して考えつづけたことは、それだった。だが何のために、そんなことを思い知らなくてはならないのか、ぼくには判らなかつた。それを考えると、なぜかぼくは何かに祈りたくなるのだった。

有吉が死んでからは、ぼくと草間は疎^そエン⁽⁶⁾になった。草間はその猛烈な勉強ぶりにいつそう拍車をかけ始めたし、ぼくはぼくで、ある新しい熱情に駈^かられて小説を読みふけるようになったからだ。その熱情とは、すでにとうの昔にこの世からいなくなった多くの作家たちが、生きているときに何を書かんとしたのかを知りたいという願望だった。死人が小説を書ける筈^{はず}などなかつたから、ぼくが捜し出そうとしていたことは馬鹿げたお遊びに近かつた。だが、その馬鹿げたお遊びは、有吉の死がぼくに与えた後遺症^cだったのだ。ぼくはまもなく後遺症から立ち直り、あらゆる物語を「死」から切り離して考えるようになった。すべては「死」を裏づけにしていたが、「死」がすべてである物語は存在しなかつたからである。

(宮本輝『星々の悲しみ』による)

問一 傍線部(ア)の訓読みと同じ訓読みとなる漢字を含まない語はどれか。次の①～④のうちから一つ選びなさい。

(ア) 歓び

16

① 満悦

② 快活

③ 狂喜

④ 慶弔

問二 傍線部(イ)、(ウ)と同じ読みとなる漢字を含まない語はどれか。それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

(イ) 贅沢	17	① 脆弱体制	② 遊説旅行	③ 中肉中背	④ 贈賄贈与
(ウ) 最期	18	① 前後不覚	② 一気呵成	③ 五里霧中	④ 呉越同舟

問三 傍線部(1)～(6)のカタカナ表記部分と同じ漢字を含むものを、それぞれ①～④の中から一つ選びなさい。

(1) ロウ人	19	① ヒロウエンの司会	② ルロウの民
(2) チ療	20	③ ロウニヤクナンニョ	④ ヒロウカイフク
(3) 意ジ	21	① ジコチユ力	② シユウチの事実
(4) 退サン	22	③ チミツに計算された犯行	④ チヨスイチの水
(5) 真ソウ	23	① チカクヘンドウ	② ユウユウジテキ
(6) 疎エン	24	③ コウガンムチ	④ ジキシヨウソウ
		① 目をおおう戦地のサンジョウ	② T会社のサンカに入る
		③ サンセイケンを持つ	④ 野山をサンサクする
		① キソウホンノウ	② テンチソウゾウ
		③ カツダンソウ	④ ソウシソウアイ
		① シンセキエンジャ	② シンボウエンリヨ
		③ ウテンエンキ	④ カテイエンマン

問四 傍線部(a)～(c)の漢字の読みとして正しいものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

a	囁いた	25	① つぶや	② うなず	③ ささや	④ うめ
b	膨れた	26	① ただ	② は	③ めく	④ ふく
c	喪つて	27	① うしな	② ひきと	③ さぐ	④ たぐ

問五 空欄(i)～(iii)に入る語句として、最も適切なものを、それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

(i)	28	① とうとう	② さんざん	③ ぶらぶら	④ せかせか
(ii)	29	① むしろ	② しかも	③ したがって	④ ところが
(iii)	30	① それゆえ	② そうであったとしても		
		③ そうでなければ	④ そう考えれば		

問六 傍線部A「夕暮の彼方から手招きされているような気持ちに包まれたのだった」とはどのような心理状態だったか。この時の筆者の気持ちとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

31

- ① 有吉に確実に死が近づいていることを知り、生きとし生ける者はすべて死から逃れられないのだという無力感
- ② 有吉が自分自身の死を確信して深い絶望の底に突き落とされていることを感じ、現実からは目をそむけたい気持ち

③ 有吉の逃れられない死を目の前にして空のかなたに死後の世界があり、そこへ行くことで癒されてほしいと願う気持ち

④ 有吉のことばに絶望し、有吉がもう自分の手の届かないところへ行ってしまったのだという孤独感

問七 傍線部Bの「『またな』と言って、笑った」とあるが、この時の有吉の気持ちとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

32

① 忙しい中、見舞いに来てくれたばかりに對して感謝の気持ちと再会を望む気持ち

② 帰りそびれてことばもなく立ち尽くしているばかりから解放されたいと思う気持ち

③ もうこれで会えるのは最後になることへの寂しさと心配させまいとする気持ち

④ 自分の夢に対する挫折感とそれを理解してもらえないことへのあきらめの気持ち

問八 傍線部C「すべては『死』を裏づけにしていたが、『死』がすべてである物語は存在しなかったから

である」とあるが、なぜそのように感じたのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

33

- ① 人は死へ向かっていることは確かだが、生は死のために存在しているのではないことを知ったから
- ② 人はみな死ぬ運命にあるが、生きている間は死を意識しないほうが充実した生が全うできるものだから
- ③ 死への恐怖や辛さを描いた物語は多いが、どんな悲惨な内容であってもどこかに明るさや希望が描かれていたものだから
- ④ 友人の死のショックから立ち直るためには、死と生を切り離れたほうが生きる力がわいてくることに気づいたから

問九 傍線部(あ)～(う)に「祈る」ということが使われている。筆者のどのような気持ちを表しているのか、

最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

34

- ① 人間の力ではどうしようもないことがあることを認めつつ大いなる力にわずかな望みを託したい。
- ② 答えの出ない問題も祈ることを通してあきらめることなく考えつづけたい。
- ③ どんな難問でも心を鎮め神を信じて祈れば必ず得られるものだと思いたい。
- ④ 不条理なことは追及せず、神に怒りをぶつけることで無力感を乗り越えたい。

Ⅲ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

三月も終わりでしたが風があつて寒い朝、私は最寄りのバス停に立って本を読んでいた。余裕を見て家を出たので、バスがなかなか来ないのも気にかけませんでした。三十分たつて、通りすがりの人に、——ストですよ、と声をかけられた私は、自分にも思いがけないことに、私鉄の駅に向けて、いっさんに駆け出していました。学校、遅刻という言葉が、何十年かぶりに私の内で活性化していたのです。

東京大学の文科系と教養学部^①の卒業式で、私はシユクジ^②をのべる約束をしていました。なんとか間に合ったのですが、動揺^①のなごりのなかで、卒業の前後をしきりに思い出していました。

フランス文学科という、森のなかの谷間の少年に不似合いなところを選んだのは、高校二年で読んだ岩波新書の著者、渡辺一夫に教わろう、と思い立ったからです。しかし駒場で初めてフランス語に接した私には、本郷に進んでも、研究者への道は遠いものでした。

小説を書き始めていたこともあるのですが、大学院をダンネン^④した私は、卒業式に出られないほど思い屈していました。四月になって、渡辺さんから話しに来るようになると葉書をもらいました。そしていわれたことを、もう幾度も書きましたが、忘れないでいます。

——小説を書いているだけでは退屈します。ある作家、詩人、思想家をきめて、その人の本、そしてその人についての研究書を、三年間読み続けるように。きみは小説家になるのだから、専門の研究者になる必要はない（そうなることはできない、という意味です）、そこで四年目には、新しいテーマに向かって進むように。

私はそのとおりにして、続けてきました。この四月から、十五回目の三年目に入ります。T・S・エリオットの後期の作品を読んで、いまはそれが（結果的に）自分の過去と現在、そして社会の未来への思いと

結んだところから、長編小説を書いています。

こうした読書をつうじて私がやってきたことは、最初は楽しみながら、そのうち切実に熱中しての「独学」というほかなかったように思います。しかしそれが私に退屈する時をあたえなかったのは事実で、先生はこれから専門機関と無関係にひとりで仕事をする卒業生に「独学」の方法を示されたのです。それが私にとって生涯の、最良の教えとなりました。

私がフランス文学科に進んだことを知った村の有力者が、どういうつもりか、と母に尋ね、夏休みにキセイした私は答えねばならなくなりました。それをつうじて何者かになろうとか、何かを達成しようというプランはなく、この教授のように考え・書く人に習いたい、私はそう答えました。学問もスゴイらしいが、知識人として優れた人だ、ともいいました。⁽³⁾知識人とは何をする人、という問いには何もいえず、母は力を落としていたものです。

若い私が新しい習慣にした読書法は、いまから振り返ると、ボンヤリとながら知識人になりたいとねがっている「独学」の方法だった、と思います。つまり、それで知識人になれるかどうかは別に⁽⁴⁾して、さしずめそうした方向にしか役に立たないものでした。実用には結びつかず、なんらかの専門家になれるのもありません。

そしていま、私の机に渡辺さんのと並べて写真と私信を置いているE・W・サイードの『知識人とは何か』(平凡社)を読むと、自分の経験からも、正しいことがいつてあると感じます。

《現代の知識人は、アマチュアたるべきである。アマチュアというのは社会のなかで思考し憂慮する人間のことである。》その上での活動が、国家や権力、また自国や他国の市民の一般的な風潮と⁽⁵⁾対立することがあっても、こうでなければならぬ、と《知識人はモラルの問題を提起する資格をもつ》。知識人はそう考える……

この国でいま、現実にくしくした大人の、コンセンサスをいう各界の実力者に、驚くほど共通しているのは、かれ自身についてをふくめ、知識人の役割への軽視です。そうした実力者への候補生と目される卒業生たちに、大学で得た専門知識を伸ばすことも大切だが、すぐには役に立たぬ知識人の（アマチュアとして個々それぞれに楽しみ、積み上げる）読書を、もうひとつの新しい習慣としてもらいたい、と私はシエクジをしめくくりました。

いま新聞広告で大きいものは、実用性と手軽な心の慰安を約束する、知的・情動的・人生論的マニュアルです。書評欄にも、長い目での読書を導くより、才気と誇張の名文で朝の楽しみをひとつ、という種類が見られます。

しかし、その気になれば岩波文庫、ちくま文庫ほか、古典を読みやすくする新訳はホウフで、原著へ向かうなら「アマゾン」がすぐにも利用できます。

そうした読書を続けつつ専門分野で仕事を重ね、しかも社会について憂慮せざるをえなくなれば、かれらは再会して、頼りになる批判層をかたち作るはず。私は将来に期待をのべているようですが、いま現にそうした人たちと巡り合っています。

（大江健三郎「伝える言葉」 二〇〇五年四月十二日 朝日新聞 による）

問一 傍線部⑦、①、②、③は熟語の一部であるが、これと同じ漢字を含む熟語として最も適切なものを、

それぞれ①～④のうちから一つ選びなさい。

⑦ シュクジ

① ジカイの念をこめて話をする

② わからない言葉を国語ジテンで調べる

③ 求められた情報をカイジする

④ 長年のライバルとタイジする

① ダンネン

① 急いでカイダンで降りる

② 注意してオウダン歩道を渡る

③ 駅の近くのダンチに住む

④ 通学電車で友人とダンシヨウをする

② キセイ

① 旅行の荷物をセイリする

② 有名な論文をセイドクする

③ 昨日のことをハンセイする

④ 子供のコセイを発揮させる

③ ホウフ

① 夏休みにフジ山に登る

② 税金のフタンが増える

③ 会議の資料をハイフする

④ ガクフ通りに演奏する

問二 傍線部①、②、③の語句について、本文中と同じ意味で使われているものを、それぞれ①～④のうち

から一つ選びなさい。ただし、選択肢の中には、明らかに間違った用法のものも含まれている。

① さしずめ

39

① 先生のさしずめに従って作業することになった

② 今日は彼とさしずめで議論する

③ さしずめの出会いを大切にしたいものだ

④ 彼とはさしずめ犬猿の仲というところか

② 風潮

40

① 冬の浜辺は特に風潮が強い

② 彼は世間の風潮に流されている

③ 息子は親の風潮に応えている

④ 彼女は会社で風潮がとても良い

③ 目される

41

① 彼の怒りは理由があいまいだと目される

② 一度は目されてみたいものだ

③ 実績から彼は次期社長と目されている

④ 世間から目される人物になりなさい

問三 傍線部(1)「動揺のなごりのなかで」とあるが、なぜ動揺したのか、その原因として最も適切なものを、

次の①～④のうちから一つ選びなさい。

42

- ① 卒業式にあやうく遅刻しそうになったから
- ② 卒業して何年も経ってから卒業式に招かれたから
- ③ 研究者として残ることのなかった母校を訪れたから
- ④ 大勢の卒業生の前で話をするようになっていたから

問四 傍線部(2)「私に退屈する時をあたえなかった」とあるが、その原因として最も適切なものを、次の①

～④のうちから一つ選びなさい。

43

- ① 小説を書いているだけでも退屈をしなかったから
- ② 楽しみながら、熱中して読書をしてきたから
- ③ 専門機関と無関係に一人で仕事をしてきたから
- ④ 村の有力者や母を説得し続けてきたから

問五 傍線部(3)「知識人とは何をする人、という問い」とあるが、筆者は現代の知識人とはどんな人である

と考えているか。適切なものを、次の①～⑥のうちから三つ選びなさい。ただし、解答の順序は問わな

い。

44

45

46

- ① 社会の中で思考し、憂慮し、広い立場から社会批判できる人
- ② 常に現実的で、世の中の流れにそくした大人のコンセンサスを言う人
- ③ 世間に流されることなく、モラルの問題を提起できる人

④ それぞれの領域で一級の指導者として活動する人

⑤ 大学で得た専門知識を伸ばして、研究者となることを志す人

⑥ 実用性や専門性と無関係にアマチュアでありながら、積み上げる読書を習慣にできる人

問六 傍線部(4)「かれらは再会して、頼りになる批判層をかたち作る」の内容として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

47

① 専門分野で業績をあげながらも、知識の質をさらに深めるために、専門分野を超えて、他分野にも興味を示す人々が出てきて、互いに交流を始めるようになる。

② 専門分野に集中してそれだけに努力を重ねてきた人々と、社会について考え、憂慮してきた人々が、結ばれることによって新しい批判層を形成するようになる。

③ いわばアマチュアとして、それぞれに楽しみ、積み上げる読書をしてきた人々が、社会への憂慮をきっかけに、知識人として意見を述べるようになる。

④ 知識人と呼ばれる人々は、個性が強く、それぞれ意見も違う。それらの人々が社会を憂慮して強い批判勢力をつくるために団結するようになる。

問七 筆者が知識人になる過程で最も影響を受けたのは誰か。最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

48

① 渡辺一夫

② T・S・エリオット

③ E・W・サイード

④ 母

問八 次の①～⑨の文の中から、本文の内容と合致するものを三つ選びなさい。ただし、解答の順序は問わ

ない。

49

50

51

① 森のなかの谷間の少年に、フランス文学科を選択することは許されなかった。

② 小説家は時に退屈するが、研究者は常に退屈しない。

③ 専門家であるとともに、知識人でもあつてほしい。

④ 社会の中で思考し憂慮することができると人を評価すべきである。

⑤ 書物には、実用性と、才気と、名文であることが求められる。

⑥ 知的・情報的・人生論的マニュアルを習得するための実用的な読書をすべきである。

⑦ 古典を読みやすくする新訳が普及してきたが、やはり原著に向かうべきである。

⑧ 知識人には、アマチュアの知識人と、専門家の知識人の二種類ある。

⑨ 本来アマチュアである知識人が頼りになる批判層を形成し始めている。

このページは空白です

このページは空白です

このページは空白です

